

協力隊がゆく ⑬

こんにちは。空き家用・移住定住担当の矢動丸です。

少しずつ、秋らしい風が吹いてきました。高梁に住んで良かったことの一つは、おいしいブドウ

や素敵なブドウ農家に出会えたことです。ピオーネをはじめとする多種多様なブドウたち。関東でも、地元の九州（長崎県）でも、こんなにたくさん種類のブドウが店頭に並ぶ光景は見たことがありませんでした。ブドウ農家を訪ねたり、手伝いをさせてもらったりすることも、高梁で初めて経験しました。ブドウ作りはとて繊細で、一つ一つ作業で行われているとは知らず、作業をするうちに農家の皆さんへの感謝の気持ちが大きくなり、



ブドウ農家さんの手伝いをしました



矢動丸 祐子 隊員

ブドウを見るときの意識も変わりました。高梁のブドウは娘も大好きなので、家族みんなで今年もたくさん味わいたいと思います。

さて、現在私は

「ワーケーション体験会in吹屋」の企画を進めています。ワーケーションとは、ワーク（仕事）とバケーション（休暇）を組み合わせた造語で、会社から離れた環境でテレワークを中心とした仕事を楽しみながら行う新しい働き方のことです。政府や各県庁もワーケーションの普及に取り組んでおり、移住や多拠点生活の検討、関係人口創出に向けた試みの一つでもあります。今回の企画は、市外に住む20〜30代の若手社員やフリーランスで働く人を対象に、10月に2泊3日で行う予定です。期間中はWi-Fi完備のワークスペースやポケットWi-Fiの貸し出しを行い、テレワークをしながら吹屋での滞在を楽しめるような環境を準備していきます。今回は少人数での体験会ですが、今後も継続的にワーケーションができる環境づくりに取り組んでいければと思います。

高梁2025 “地域医療はまちづくり” ⑱

「高梁2025」は、持続可能な地域医療体制の構築に向けた取り組みの総称です。

救急外来を正しく利用しましょう

救急外来は、救急患者や重篤な症状の人のための外来で、限られた医療従事者で対応しています。夜間や時間外に不要不急な受診が増えると医療従事者が疲弊し、患者も十分な医療を受けることができなくなります。

日常的な病気や軽いけがは、身近な医療機関を通常の診療時間内に受診するようにしましょう。地域医療が持続できるよう、一人一人が「上手な医療のかかり方」を知り、できることから実践してみましょう。

令和2年度 夜間・時間外受診件数

高梁市 … 1794件 新見市 … 1042件

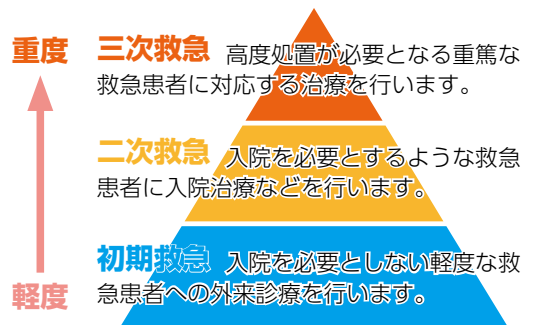
※このうち入院を伴う受診数は高梁市は382件、新見市は483件。

同じ医療圏にある新見市と比較すると、高梁市の夜間・時間外の受診件数は約1.8倍となっています。(令和2年度病床機能報告(岡山県ウェブサイト)より参照)

救急医療を提供できる体制

必要な人に適切な診療を行うために、救急医療機関は緊急性や重症度に応じて3つの区分に分かれて対応しています。

高梁市では、初期救急は地域の診療所などのかかりつけ医療機関、二次救急は3つの救急告示病院(高梁中央病院、大杉病院、成羽病院)、三次救急は県全体で救命救急センターなどの5つの医療機関がそれぞれの役割を担っています。



市ウェブサイト「高梁2025～地域医療の高梁モデル構築に向けた100の検討とアクション～」にこれまでの議論の内容などを掲載しています。



問 地域医療連携課 ☎ 21-0304